

水稲品種「シシクワズ」を用いたイノシシの被害回避効果			
[要約] 水稲の在来種「シシクワズ」は芒が長い。このため、イノシシの被害を受けにくい。			
農業技術振興センター栽培研究部湖北分場 [実施期間] 平成15年度～18年度			
[部会] 農産	[分野] 多面的機能	[予算区分] 国庫	[成果分類] 研究

[背景・ねらい]

本県の中山間地域ではイノシシによる農作物被害が多発しており、防護柵や捕獲を中心とした対策が講じられているが、多大な労力とコストを要する。

一方、里側のエサ場価値の低減を総合的に行う観点から、様々な防除技術の開発が切望されている。そこで、かつてイノシシの被害を受けにくいとして栽培されてきた水稲の在来種「シシクワズ」の被害回避効果について検討する。

[成果の内容・特徴]

「シシクワズ」は芒が長く、出穂期および成熟期では「日本晴」とほぼ同期である(図1、表1)。

「シシクワズ」は、「日本晴」と同一圃場に作付けた場合、徘徊や踏み荒らしが「日本晴」に比べおこりにくい(図2)。

「シシクワズ」は、と同様の場合、「日本晴」に比べ、穂の食害を受けにくい(図3)。

「シシクワズ」は、1筆すべてにシシクワズを作付けた場合、出穂期以降、圃場付近への出没や侵入があるにもかかわらず被害を受けにくい(表2)。

以上の結果より、水稲の在来種「シシクワズ」は、短芒品種に比べイノシシの被害を受けにくい。

[成果の活用面・留意点]

「シシクワズ」は被害を受けにくいことから、山際の水田や耕作放棄地に作付けることにより、イノシシの被害発生地域のエサ場価値を下げる可能性がある。

「シシクワズ」は、主食用としての食味は劣るが、サイレージとしての栄養価値が認められることから、中山間地域の放牧を視野に入れた飼料作物として利用できる可能性がある。

「シシクワズ」の種子供給体制等については、今後検討を要する。

